

Challenge Series vol.7

家庭ゴミのビン、缶、ペットボトル、どこへ行って、どうなるの？



ここ(鶴見資源化センター)には、鶴見区、中区、西区、神奈川区の一部、南区の一部、保土ヶ谷区の一部、港北区の一部の家庭から出された資源物が集まる。

一日の処理量、約50t!
これでも市全体の4分の1

家庭ゴミとして出されたビン、缶、ペットボトルの行方を追って、鶴見資源化センター(横浜市鶴見区)を見学させていただきました。

まず驚くのは、運び込まれる膨大な資源物の量です。収集車のべ100台、約50t(トン)の資源物が毎日届くそうです。これでも横浜市全体の約4分の1の量です。

集められた資源物は最初に、レジ袋を裂く機械通り、手作業でレジ袋が取り除かれます。むき出しになった資源物は次に、分離機と呼ばれるすべり台通り、下に落ちる重いビンと横



鶴見資源化センターは月曜から土曜まで、朝8:30から夜8:45まで稼働している。

に流れる軽い缶やペットボトルに振り分けられます。

ビンは手選別コンベヤを流れ、作業員によって色別に振り分けられます。ビン以外のものは、作業員により最初にペットボトルを取り除かれ、残りは強力な磁石の力でスチール缶とアルミニ缶に分けられます。

働き続ける重機と機械 そして、作業員の手と目

機械とともに、各々の持ち場で忙しく働く作業員は常時30名ほどだそうです。

副署長の西崎さんの「新素材の開発や世の中の嗜好などで日々移り変わるゴミに対応するのは、数十年も



作業員によってコンベヤから取り除かれた物の一部。おびただしい数の注射針や鍵針。中にはむき出しの針もあり危険だ。

使いし続ける機械ではなく、現場の作業員なのです。」という話が印象的でした。

この日、コンベヤから除けられた物の中に、針や刃物がありました。毎月約3kgも混入している注射針は特に感染症などの危険もあり、注意しているそうです。

資源化センターとは、まさに原材料製造工場のこと

最終的に、ガラスは色別に分けられ、ペットボトル、スチール缶、アルミニ缶は、それぞれプレスされ、原材料としての純度の高さでランク付けされて業者に売却、または引き渡されます。ここは原材料製造工場なのです。



次に運び込まれる資源物を、まずは、そのレジ袋を取り除くための機械に乗せていく。鶴見資源化センターでは、取り除いたレジ袋は隣接の工場で焼却し、自家発電として利用している。撮影:豊田直之



搬出待つペットボトル梱包品。1つのブロックでペットボトル約7000本分、約180kgある。これが1日約60個もできる。

であれば、ゴミを減らすことはもちろんですが、ラベルやキャップは外し、行政の規則を守って資源物を出し、私たちの生活を支えている工場への労いと、そこで働く作業員の安全にもつなげたいものです。



1つ約25kgのアルミプレス品は1日で約150個できる。回収されたアルミニ缶の多くは、アルミニ缶の胴(蓋以外の部分)に使用される。

大岡川野鳥観察記 No.13

シジュウカラ

四十雀【Japanese Tit】
スズメ目シジュウカラ科 15cm



白い頬、胸元の黒いネクタイが特徴。写真はオス。撮影:豊田直之

に見えます。その上を左右一本ずつ太い白線が帯状に背を斜めに横切れます。

食性は雑食で、果実、種子、昆虫類などを食べます。樹洞や木の穴などを巣を利用して、春から初夏にかけて卵を産んで抱卵します。孵化したヒナは3週間ほどで巣立ちます。

鳴き声は、「ツイッピーツイッピー」、「ツピツピツピ」などを繰り返すことが多く、林の中でこのさえずりを聞くと春の訪れとなります。



大岡川源流域・水取沢(ひとりざわ)の林の中。どこからともなく飛んできて小枝に止まり、きれいな通る声でさえずっては、再びどこかへ去って行った。撮影:豊田直之

Radio Taxi ラジオタクシー

子育てタクシー
陣痛119番



小さいおさんとの外出も安心!

研修を受けた安心
ドライバーが担当

チャイルドシート
完備!!

おかげさまで創業65周年

アサヒタクシー株式会社



アサヒタクシーは環境を守る企業経営に責任を持って取り組んでいます

羽田空港
定額運行サービス
西区・中区より
普通車 5,800円
(高速料金別途)

0120-39-9875
〒231-0851 横浜市中区山元町4-188番地
<http://www.asahitaxi-hama.co.jp>

あなたに寄り添うクルマ、
それがボルボ。



THE NEW
VOLVO XC40



ボルボ・カー横浜西口
横浜市西区楠町12-10
首都高速 横浜西口ランプそば
TEL:045-321-0990

ボルボ・カー横浜西口